

『胃瘻を造設できる医師も、胃瘻-経腸栄養を理解している医療者も、減ってきている：大問題だ！』

2026年2月28日、トランプ大統領とイスラエルのネタニヤフ首相がイランを攻撃。石油を始め、大変なことになっています。これからどうなるのか、世界中が先行きを心配しながら**イラン情勢**を見ています。

3月は大学は春休み。もちろん、私はふつうに大学に出て来ています。でも、誰とも話すことなく過ごす日が多いので寂しい。仕方ないこと。だから木曜日の東宝塚さとう病院ではよくしゃべるんです、反動です。

3月で最も大事なイベントは、犬山で開催した第19回リーダーズ(静脈経腸栄養管理指導者協議会)学術集会。参加者は120人ほどでしたが、いい議論ができました。懇親会も約70人が参加。盛り上がりました。会長の齊藤先生が、長渕剛の「乾杯」を熱唱した後で「乾杯！」、大盛り上がり！私は犬山城観光をきっちりやりました。木曾川を渡って岐阜県側からの犬山城も撮影(城内には入れず、開城時刻の関係で)。学術集会は相変わらずの議論沸騰。パネルディスカッション「NSTの現状と問題点」で盛り上げたかったけど、私の予想よりは盛り上がりなかったかも。もっと本音が出てくれたら、と思ったけど、まあ、あそこまでしか言えないのでしょう。優秀演題の医師部門(中井賞)は杉田玄白記念公立小浜病院外科の林先生。医師以外部門は新設した「松末智アワード」。徳山中央病院の藤江看護師が受賞。経鼻胃管の固定方法に関する検討で、懇親会でも話題として盛り上がりました。残念ながら JANVIC 演題は無し。本当に残念というか、重大な問題になっているかもしれません。次回の第20回は10月10日と11日に名古屋市で開催(すぎもと在宅医療クリニックの杉本先生が会長)。

3月10日は基礎ゼミ旅行で和歌山へ。私は担当ではないけど崎山先生に誘われて、付いて行きました。参加学生は1年生の6人。名前も知らず、顔も知らず(名前を覚えてもらったけど、もう忘れたかも)。JR 天王寺駅で待ち合わせ。参加学生に声をかけられたので集合できたという感じ。海南市の黒潮市場と和歌山城観光。この日は本当に寒くて、黒潮市場で予定していたバーベキューは止めて海鮮料理に変更。和歌山城は初めて。りっぱな城でした。



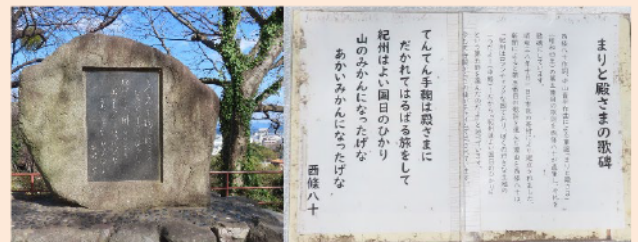
↑千里金蘭大学の基礎ゼミ旅行で、6人の学生さん達について和歌山へ行きました。私は崎山先生に付いて行っただけ。むちゃくちゃ寒い日でした。海南市の黒潮市場で「マグロ解体ショー」を見学したり、海鮮料理を食べたり。右は解体ショーのりっぱなマグロです。



↑黒潮市場で記念写真。学生さん達のお顔を出してはいけないということで、こういう写真になりました。左端のいかついおっちゃんが、私です。金蘭会という組の方ですか？でした。



↑和歌山城へ行きました。いい天気でしたが、寒かった。石段をのぼって天守閣へ。学生さんたち、しんどい、しんどい、と言いながら登っていました。私のほうがはるかにスタスタと上っていましたよ。



↑和歌山城でみつけた歌碑。この歌はもちろん知っていますが、この歌が紀州でのものだとは知りませんでした。知っていましたか？西条八十の作詞です。八十は『やそ』と読みます。

3月12日は恒例のグルメの会。次世代内視鏡外科治療学の中島教授にお世話いただき、上池・伊藤・根津・弓場・北川先生と一緒に和食の高級料理を食べました。今回は小児外科の新教授：渡辺先生も参加。おいしい、楽しい、食事会でした。



↑非常にいい写真でしょう？和歌山城の天守閣です。右は道路から撮影しました。

翌13日は千里金蘭大学の学位授与式、卒業式。学生達は着飾っていました。きれいでしょう？まあ、きれいですよ、でした。夜は梅田スカイビルでの卒業パーティに参加。ビンゴゲームで私は2等賞(松阪牛1万円分)！しかし、教官がもらってはいけません。ここで「運」を使ってはいけません。学生達にプレゼント。20人ほどの学生がじゃんけん。わずか2回で決まってしまうました。もっと盛り上がりたかったのに。簡単に決まり過ぎ！



↑卒業式(学位授与式)が終わってからの写真です。みなさん、きれいに着飾っておられます。一世一代の晴れ姿です。

15日の日曜日は今年度最後のオープンキャンパス。今回は参加者がかなり多くて、よかったです。参加者には近くの有名なケーキ屋さん：デリチユースのチーズケーキをプレゼント(1個700円)。参加した生徒さん達、非常に喜んでいました。おこぼれは、なし。私は、朝からずっと会場をうろうろ。ほぼ6時間うろうろ。役に立ったのかなあ。



↑左は学位授与式後の、学部毎の記念写真。右は栄養学部の学生達が事務連絡などのために集まっているところ。担任の先生達からの挨拶がありました。卒業、おめでとう！

19日は、栄養学部の慰労会。千里中央での食事会。楽しい時間を過ごしました。

最後にお知らせです。前回までの記事を「ゼン先生の栄養管理講座Ⅳ」として本にしました。今回は、出版してくれる出版社がなかったので自費出版、100冊だけ。希望して下さる方にはプレゼントしますが、全員には無理。どうしても欲しいという方は連絡ください。正直、読んでいただけたらうれしいのです。

ゼン先生の 栄養管理講座Ⅳ

井上善文 千里金蘭大学 栄養学部 特別教授

静脈経腸栄養管理指導者協議会 (PENリーダーズ)

第20回 学術集会

○日時
2026年10月10日(土)~11日(日)

○会場
今池ガスビル 7F
〒464-0850 名古屋千種区今池一丁目8番8号

○当番会長
医療法人すぎもと在宅医療クリニック
院長 杉本 由佳

多くの方のご参加、発表、積極的な質疑応答をお待ちしております！

一般社団法人 静脈経腸栄養管理指導者協議会 事務局
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1 TEL: 06-6372-3053
Email: leaders@intergroup.co.jp
HP: <https://penleaders.org/index.html>

←次回、第20回PENリーダーズ学術集会の『チラシ』です。もう完成しています。杉本チームのアイデアで作られたとのこと。いい雰囲気です。本当、杉本先生がものすごく力を入れてくださっています。大成功間違いなし！10月10日、是非、名古屋に来てください。第20回の記念大会なので、何か、思い出に残るものを、と、代表理事として考えています。お金がたくさんあれば……。なかなか難しいのですけど、気持ちはあるのですよ。

ゼン先生：アメリカとイスラエルがイランを攻撃して大変なことになっています。

小越先生：そうだってな。ホルムズ海峡を船舶が通れなくて大変なことになっているんだな。

ゼン先生：戦争するなら勝手にやってくれたらいいんですが、ホルムズ海峡が封鎖されてタンカーが動けないので世界中が大変なことになっています。

小越先生：石油の問題だな。迷惑な話だ。

ゼン先生：影響はすごいです。これからどうなるのか、世界中が不安だらけです。困ったことです。本当に、世界中、戦争、戦争になってきています。

小越先生：第二次世界大戦で反省したんじゃないのか。いい加減にして欲しいな。

ゼン先生：トランプ大統領のおかげで、こうなっているんでしょう。どうしようもないんですよ。

小越先生：仕方ないな。ところで、大学は3月は春休みだな。何か、話題はあるのか？

ゼン先生：まずは卒業式ですね。

小越先生：千里金蘭大学は女子大だから卒業式は華やかなんだろう？

ゼン先生：着物、袴姿です。着飾っていました。

小越先生：いいなあ、オレも見たかったなあ。

ゼン先生：来年は代わりに参加されます？

小越先生：君はうれしくないのか？女子大生の着飾った姿を見て。

ゼン先生：別に。

小越先生：相変わらずつまらんやつだ。

ゼン先生：すみません。

小越先生：それだけか？

ゼン先生：管理栄養士国家試験がありました。

小越先生：合格率はどうだったんだ？つい、この間、「管理栄養士国家試験に物申す」という論文を執筆したんだらう？

ゼン先生：とうとう書いてしまいました。医学中央雑誌に掲載されます、そのうち。

小越先生：話題になって欲しいな。第40回の管理栄養士国家試験の合格者発表もあったんだらう？

ゼン先生：ありました。これまでの最低だそうです。

小越先生：え？また合格率が下がったのか？

ゼン先生：はい。全体で48.1%です。新卒が79.3%、既卒者が9.4%、栄養士課程終了者は11.0%です。

小越先生：ひどいなあ、その合格率は。

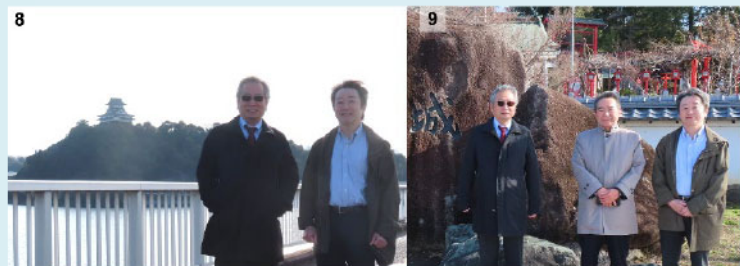
ゼン先生：ひどいです。新卒者の合格率は8割近いの



↑ 国宝犬山城です。いろいろな角度から撮影しました。小高い山の上にある天守閣なので、いろんな角度から見るができます。右端の写真は、木曾川の畔、愛知県側からの撮影です。



↑ 木曾川にかかるライン大橋を渡って、対岸に行き、写真撮影。4の写真は屋形船です。7の写真にはライン大橋が写っています。



↑ 説明不要です。怖いじいさんと、善良な外科医の記念写真です。



↑ 学会前日の夕方は一人で歩いて歩いて、犬山城を撮影。当日の朝は北出先生と散歩。8はライン大橋を渡った所で北出先生と記念撮影。怖いおじいさんと北出先生のツーショット写真。ライン大橋の途中で高崎の小川先生に遭遇。犬山城の入口で3人で記念写真を撮りました。

でこれでいいんだ、と大学の先生達は思っているのかもしれませんが、資格認定試験として、ダメだと思います。今回はこれ以上は言いませんが、根本的に改

めるべきです。受験生がかわいそうです。管理栄養士さん達、これでいいと思っているのでしょうか。自分達は合格したんだから、どうでもいいと思っているのでしょうか。なんとかしなくては。ああ、だんだん腹が立ってきました。

小越先生：落ち着けよ。君が書いた論文が、刺激になってくれるかもしれないじゃないか。

ゼン先生：そうですね。それも期待しましょう。(読みたい方は連絡ください)

小越先生：次の話題に進もうじゃないか。

ゼン先生：そうしましょう。気分を変えて。

小越先生：楽しい話をしよう。WBCがあったな。

ゼン先生：大谷、大谷でしたけど、ベネズエラが優勝しました。ジャパンはダメでした。

小越先生：盛り上がりには欠けたんじゃないか？

ゼン先生：そうですよ。テレビで見ることができなかったし。

小越先生：そうらしいな。Netflixとかいうのじゃないと見れなかったんだろう？

ゼン先生：ふつうのテレビで見られないって、おかしいですよ。

小越先生：そうだよ。NHKは何をしていたんだと言いたい、オレも。

ゼン先生：本当に。大相撲の大阪場所もありました。

小越先生：横綱を目指していた安青錦はどうだったんだ？

ゼン先生：残念ながら負け越しでした。関脇の霧島が優勝して、大関になりました。

小越先生：一旦、大関から陥落したんじゃないかったのか、霧島は。

ゼン先生：そうです。地道に稽古、稽古した結果だそうですね。

小越先生：それはすばらしい。春の選抜、高校野球もあったんだろう？

ゼン先生：ありましたが、なんか、盛り上がらなかったという感じです。勝ち残るのが、いわゆる私立の野球名門校ばかりになっていますから。

小越先生：そうだな。

ゼン先生：何年か前の佐賀北高校とか、この間の島根県の大社高校とか、公立高校が旋風を巻き起こしてくれないと、盛り上がりませんね。

小越先生：難しい問題かもしれないけどな。そろそろ「栄養」の話をしようや。



岡田正メモリアル
レクチャー

論文賞：関口薬剤師

論文賞：木暮先生



『乾杯』熱唱中
の齊藤先生

中井賞：林先生

松末智アワード：藤江看護師

↑会長の齊藤先生の写真6連発。機関誌の論文賞、中井賞、松末智アワードの表彰の時の写真です。全部、にこやかです。総合犬山中央病院にとって、特にNSTが前に進むいい機会になったと言っていました。会長、ありがとうございました。



↑パネルディスカッション『NSTの現状と問題点』のパネリストのみなさん。いい発表でした。でも、もう少し、いろいろ、本音をしゃべって盛り上げて欲しかったかな。



↑座長の方々は。早く事前登録をしてくださった方の中から選ぶのです。だから、メンバーが固定されてしまっています。もっといろんな方に座長をして欲しいので、次回から、早く参加登録をしてください。お願いします。

ゼン先生：そうですね。栄養の話と言えば、ここ3年間の『ゼン先生の栄養管理講座』を本にしました。『IV』です。千里金蘭大学に来てからの3年間中心です。

小越先生：そうか。リーダーズのホームページで読めるけど、やっぱり本にしたいよな。売れるといいけど。

ゼン先生：いえ、売れる形にはできなかったんです。いつもの出版社に断られました。仕方ないので、100冊、研究費を使って製本したんです。1冊の価格はかなり高かったんですが、仕方ありません。

小越先生：そうか。出版したら買ってくれる人もいるはずなんだけどな。

ゼン先生：仕方ありません。売れる本ではないので、出版社に断られるのも当然でしょう。100冊ありますので、プレゼントすることにしました。

小越先生：オレにも1冊、お願いしますよ。

ゼン先生：もちろんです。先生には「いの一番に」読んでいただきたいのでプレゼントします。

小越先生：他にも欲しい人がいるんじゃないか？

ゼン先生：欲しいという人には、可能な限りプレゼントしたいと思っています。

小越先生：そうか。まあ、限定品だから、欲しいと言ってもらっても、みんなにはプレゼントできないのは残念だけど。

ゼン先生：仕方ありません。

小越先生：そうだな。ところで、3月はリーダーズがあったんだな。

ゼン先生：3月7日と8日に犬山市で開催しました。もう第19回です。

小越先生：犬山か。国宝犬山城だな、観光の目玉は。

ゼン先生：非常に雰囲気のある城下町です。犬山城は木曾川に面して建っていて、木曾川を渡ったら岐阜県です。

小越先生：へええ。岐阜県にも行ったのか？

ゼン先生：そうですね。岐阜県側からの景色もものすごくいいので、いい写真も撮れました。

小越先生：今回の会長は総合犬山中央病院の齊藤先生だな。

ゼン先生：はい。先生もご存じの、岐阜大学第一内科の武藤泰敏先生のお弟子さんです。

小越先生：そうか。武藤先生の弟子か。

ゼン先生：機関誌の「私の栄養管理歴」に書いてもらったんですが、岡田正メモリアルレクチャーでアミノレバンやリーバクトの開発の話もしていただきました。

小越先生：それはよかった。

ゼン先生：総合犬山中央病院から20人ほどが参加してくれました。最後に広報兼医師採用サポート課の高井さんに「伝えるというスキル：記憶に残るメッセージを届ける」というタイトルで講演していただきました。スライドの作り方を基本とした内容でしたが、みなさん、非常に喜んでいました。ニプロの連中と話したんですが、ものすごく勉強になったそうです。

小越先生：そうだろう、そうだろう。そういう話は聞く機会はなかなかないからな。



↑発表者は、初めての方が多かったと思います。下、左から3人目は、神戸学院大学薬学部の学生さんです。いい発表をしていましたが、きつい質問に苦労していました。もっと優しい質問をしたらよかったと反省している方もいましたが、いい勉強になったでしょう？発表してくれてありがとう。



↑何回も発表していただいている方達です。右は、今回の教育講演：総合犬山中央病院の高井さん。みんな、興味津々で聞いていました。次回からの発表者達のスライドが変わる！？



↑質問をしている方々です。にこやかな表情で厳しい質問をしていた方もいました。私としては、もっと質問を短く、端的にして欲しいと思いましたが、質問の仕方も勉強してください、それも大事です。

ゼン先生：私が12月に総合犬山中央病院に講演に行った時、いろいろ話を聞いて、高井さんに講演してもらおうと思ったんです。広報やプレゼンテーションの専門家なので、私自身が話を聞きたいと思ったんです。

小越先生：なるほど。その道の専門家の話を聞くことは非常に有意義だからな。いいことをしたな。

ゼン先生：記録集にきちんと講演内容をスライドと共に出します。記録集に掲載するように小さくしても読めるスライド、それが大事なんです。

小越先生：本当にスライドの作り方の勉強になったんだな。

ゼン先生：はい。私も勉強になりました。

小越先生：ところで今回の話題は？

ゼン先生：そうですね。中井賞は杉田玄白記念公立小浜病院の林先生になりました。一般演題とNSTパネルディスカッションでも発表し、非常にながらんでいるので、受賞してもらってよかったと思います。

小越先生：そうか。林くんか。これからがんばってもらわなくては、な。

ゼン先生：期待しています。そうそう、「松末智アワード」を作ったんです。中井賞は医師に対して、コメディカルには松末智アワードとしました。

小越先生：松末先生は、特にチーム医療に力を入れていたからな。

ゼン先生：そうです。それを考えてのアワードです。

小越先生：それで、誰が「松末智アワード」をもらったんだ？

ゼン先生：徳山の藤江看護師です。

小越先生：どういう演題？

ゼン先生：経鼻胃管の固定法についてです。

小越先生：へええ。優れた演題だったんだろうな。

ゼン先生：20人に採点してもらった結果なんですけど、私としては、話題性の意味が大きかったと思っています。エレファントノーズ法に対して、ワイドパッチ法という新しい方法が事故除去予防に有効か、という内容でした。

小越先生：話題性も大事だよ。

ゼン先生：そうですね。でも、なんか、経鼻胃管を適切に管理しようという内容だと、胃瘻が減るんじゃないかと思ひましてね。

小越先生：その考え方は短絡的過ぎるんじゃないか？単純すぎるぞ。

ゼン先生：そうなんですけど、今、胃瘻に関する問題が大きすぎますので。

小越先生：君の気持ちはわかるけどな。そうだ、君は、経鼻胃管から投与する粘度可変型経腸栄養剤が発売された時も、胃瘻にしないでいい、という意味になるから、と言って反対したよな。

ゼン先生：そうでした。ハイネックスィーゲルやマー



↑ 展示会場と企業プレゼンです。アポットジャパン、ニプロ、大塚製薬工場、ありがとうございました。展示会場も盛り上がっていました。成果はあったでしょうか？展示会場にこんなに参加者が集まることって、ないんじゃないですか？展示した甲斐があったと思っていただけるように、そのための時間も設定しているんですよ。次回もよろしくお祈りします。

メッドが発売された時、なぜ、こういう製品を開発したんだと、大塚製薬工場とテルモに言いました。半固形経腸栄養剤は胃瘻が普及したから開発できた製品じゃないか、経鼻胃管でも半固形経腸栄養が実施できるということになって、半固形経腸栄養を実施するためにわざわざ胃瘻にしなくてもいいんだ、となるじゃないか、ということ。

小越先生：そういう事を言うのは君だけだよ。

ゼン先生：わかっています。でも、ちょうど胃瘻バッシングが起こった頃だったので、そういうことを言いたかったんです。

小越先生：そうだったな。タイミングもあったな。

ゼン先生：今回も、もちろん、胃瘻に関する発表もありましたよ。胃瘻を適正に使って有効な栄養管理ができた、という内容でした。胃瘻は有効だ、という内容で、いい発表だったんです。

小越先生：よかったじゃないか。

ゼン先生：そうなんですけど、世の中では、もっと深く考えるべき問題が起こっているようです。

小越先生：別の問題？

ゼン先生：医療者の胃瘻に対する関心が全体的に低下しているようです。

小越先生：全体的に低下している？どういうデータからそう判断しているんだ？

ゼン先生：数値としてのデータはないんですが。

小越先生：そうだろうな。データを出せ、というのは酷だな。でも、何等かの根拠があってそう言っているんだろう？

ゼン先生：データではないんですが、それを推測する話としてはですね。一つは、横浜で開催されたJSPEN2026です。西口先生達の座長で「PEG・在宅医療学会との合同パネルディスカッション：日本のPEGを問う」のセッションがあったんです。でも、会場はガラガラだったそうです。

小越先生：へええ、ガラガラか。

ゼン先生：という話でした。JSPEN全体の参加者は1万人以上なんですから、ガラガラというのは・・・。

小越先生：そうだな。それは、胃瘻一経腸栄養に興味がある人が少なくなっていることを意味している、と言いたいんだな。

ゼン先生：そう思います。経口栄養、食べる、飲むに興味集中しているんでしょう。それからですね、私はウェブで拝聴したんですけど、金沢の小川先生が大事な発言をしていました。

小越先生：そうか、あのPEGの小川くんか。

ゼン先生：そうです。日本消化器内視鏡学会でPEGが取り上げられなくなっているそうです。胃瘻造設の専門家達の学会で、胃瘻やPEGに関する演題がほとんど無いそうです。

小越先生：へええ。あれほど胃カメラの専門家達がPEG、PEGと言っていたのに。

ゼン先生：そうなんです。それから、西口先生がウェブで胃瘻に関する講演会で話した時、結構、参加者が多かったそうなんです。

小越先生：それは、興味を持っている人が多いということなんじゃないか？

ゼン先生：そういう解釈もできますけど。西口先生がその時に何を感じたかという、PEGの教育が不足している、PEGに関して知りたいと思っている人が多くなっている、だから、こういう講演会の参加者が増えているんじゃないか、ということだったそうです。

小越先生：それも興味を持っている人が増えているという意味で、いい話じゃないか。

ゼン先生：それはそうなんです。一歩進めて考えると、PEGに関する興味全体として低下している、その結果、PEGを実施できる医師が減っている、だから、若い医師がPEGについて勉強しようと思ってもその



↑懇親会の料理はうまかった！名鉄小牧ホテルからのケータリングでした。高いんですけど、学会としてサポートしました。だから、今回も赤字経営でした。いいんです、とは言いませんが、学会のお金は参加者のために使うんです。でも、まもなく枯渇します。懇親会では、ほとんどの方にしゃべっていただきました。みなさん、いろいろ、楽しいコメントをしてくれました。みなさん、栄養に力が入っていることがよくわかりました。また、名古屋で会いましょう。

機会がものすごく少なくなっている、だから、西口先生達のPEGの講演会への参加者が多くなっている、ということになると思うんです。

小越先生：なるほど、そういうことか。PEGや胃瘻について知りたいと思っても、勉強の機会が少なくなっている、ということなんだ。

ゼン先生：そういうことです。

小越先生：君が言いたいのは、結果としてPEGを実施できる医師が減っているということか。

ゼン先生：そうです。それは、PEGという手技に対す

る関心も低下していることになるんです。その結果、PEGを実施できる医師が減っているんです。

小越先生：だから、胃瘻を介する経腸栄養が適応だと判断して「PEGをお願いします」とNSTが依頼しても、造設手技に自信がない消化器内科医が増えているから、PEGなんていらないでしょう、どうせ、家族が反対するでしょう、栄養状態が悪いから止めておきましょう、なんていうことになるんだ。

ゼン先生：そうらしいんです。アルブミン値が2.5g/dL以下の症例にはPEGは適応にならない、なんてマニュアルに記載している病院もあるようです。

小越先生：なるほど。PEGができない理由を探しているということだな。

ゼン先生：その通りです。そうこうしているうちに、PEG実施件数が非常に少なくなって、PEGを見たこともない医師、医療者が増えて、正しいPEG実施、胃瘻管理ができなくなってきているんだと思います。

小越先生：胃瘻に関する悪循環が始まってしまっているということだ。

ゼン先生：西口先生がその点が非常に大事だと言っていました。PEGの手技を指導する場をもっと作らないと、PEGの適応がどうのこうのと言っている間に、PEGを実施できる医師が減って、どうしようもなくなると言っていました。



↑会場の雰囲気です。参加者数は120人。もっと多くの方に参加して欲しい。こんなに勉強になる学術集会はありませんよ。みなさん、参加者としていろいろ議論に参加しています。「学会は議論の場」なんです。単なる発表会ではない、そこを大事にしています。一度、参加してみてください。右下の写真は、前回の会長、市立芦屋病院の野呂先生と、中井賞の東宝塚さとう病院の高橋看護師です。中井賞の楯はりっぱでしょう？

小越先生：PEGを実施できる医師が減っていることには気づいていなかった、ということだな。

ゼン先生：そうですね。この点については私も気づいていませんでした。これは非常に大変なことです。適応がどうのこうのと言っている間に、PEGを実施できる医師が減り、適正な管理ができる看護師が減り、胃瘻の本当の意義を理解している医療者が減ってきている、これは本当に重大な問題です。

小越先生：本当にそうだな。やっぱり、教育活動をもっともっとやらなくてはならないぞ。

【今回のまとめ】

1. アメリカとイスラエルのイラン攻撃で世界中が困っています。ホルムズ海峡が封鎖されてタンカーが動けなくなっています。これからどうなるのでしょうか。さらに大変なことになるかもしれません。
2. 犬山リーダーズ（第19回）は大成功でした。総合犬山中央病院のみなさん、齊藤先生、ありがとうございました。いい学術集会になりました。
3. 胃瘻の領域に新たな問題が起こっているような感じですが。胃瘻を造設できる医師が減り、胃瘻を理解している医療者が減っている、大きな問題です。
4. 胃瘻の適応についてどうこう言っている間に、胃瘻を造設して管理するという医療界の能力が低下してきているようです。
5. やはり、臨床栄養教育にもっと力を入れなくてはなりません。もっと先のことも考えて、教育をしなければならぬと思います。
6. 8月1日と2日に開催するMedical Nutritionistセミナー、10月10日と11日に開催する第20回リーダーズ学術集会、予定に入れておいてください。